

令和8年度 柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時 令和8年8月21日（金）

午前10時30分～12時

場 所 柏原市立高井田文化教室 柏陽庵

会議出席者

委員

綿貫友子（会長）、網 伸也（副会長）、櫻澤 誠、安田典子、
笠原雄一、田中一廣、望野由文 6名

事務局

新子寿一（教育長）、桐藤英樹（教育部長）、石原 悟（次長兼
文化財課長）、山根 航（文化財課参事兼課長補佐兼歴史資料館
館長）、安村俊史（歴史資料館特別館長）、越智勇介、小池真理
子（以上、歴史資料館学芸員）

1. 開会（10 時 30 分） 進行：越智

2. 新子教育長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 委員紹介

5. 事務局紹介

6. 議事

①会長・副会長の選出

会長・副会長は委員の互選によって定められているが、自薦・他薦ともなかったため、事務局から会長に綿貫委員、副会長に網委員を提案し、委員全員一致で決定。

【議事は会長が進められているため、以下、綿貫会長が議事進行】

②令和 7 年度事業報告

（1）歴史資料館関係 山根報告

（2）横穴管理運営関係 山根報告

〔資料参照〕

【質疑】

○入館者数について

委員：ここ数年のデータはコロナ禍からの回復傾向を示しているが、コロナ前（2018～2019 年度）の数値と比較した議論が必要ではないか。また、秋季企画展の団体見学について、小学校の団体利用数はどのような状況になっているのか。

事務局：コロナ前は年間 16,000～18,000 名規模だった。令和 7 年度入館者の 18,703 名には、マンホールカードを目的とした入館者約 2,000 名、近鉄主催の謎解きクイズラリーでの入館者約 3,000 名などの外部要因が含まれており、これらを除くと純粋な資料館利用者はコロナ前の水準まで戻っていないと認識している。秋季企画展における小学生団体利用について、そもそも子どもが減少している状況下であるが、令和 7 年度は大阪・関西万博への社会見学にシフトした影響で減少した。今年度の予約状況は昨年度より改善している。

委員：土日祝日平均入館者数は、令和 6 年度から 30 名ほど上昇しているが、どのように評価しているのか。

事務局：先に触れた謎解きクイズラリーでは、土日に家族連れで来館している姿を見かけることが多く、それが数字に表れている。そのイベントが終了する今年 5 月には、駆け込

みで来館者が増加した。そうした歴史や文化財に普段触れることのない層を対象とした機会づくりも重要と考えている。

○かしわらこども講座について

委員：定員 20 名のところ参加者が 4 名ということで、こども達にとっては充実した内容になっていると思うが、周知の方法はどのように行っているのか。

事務局：広報、ホームページ、館内でのポスターなどで募集を呼びかけている。今年度は、7 名の参加となっている。

委員：4 名から 7 名に増えたということで、この講座の情報が少しずつ浸透しているという評価もできる。どのようにして講座を知ったのかを把握するべきである。

事務局：講座生にはアンケートの回答を郵送でお願いしており、その内容を精査する。学校行事と重なったため参加できない、という声もあるため、学校行事とも日程を調整しながら、この講座が今後、歴史資料館の夏休み中の恒例イベントとして定着、成長していけばよいと考えている。

○市内小中学校への周知について

委員：市内の全小中学校にポスターやチラシを配布しても、掲示されていない学校も見かける。ただ配布するだけでなく、校長会を通じて働きかけたり、PTA 等を通じて保護者の目に触れる機会を増やしたりするなど工夫すべきである。また大和川付け替えの歴史だけでなく、柏原の歴史全体をこども達に教えるため、まずは教員自身が勉強する場として歴史資料館に来館することが必要だと考える。

事務局：ポスターの掲示は各校の判断に委ねられているため、掲示していない場合もある。今後は同じ教育委員会内の組織として連携し、積極的な周知を図る。

委員：小中学校において、柏原で育つこども達に地元の歴史を伝えることは、アイデンティティにも繋がる重要な責務である。校園長会で情報を共有し、学校行事とずらしながらも全児童・生徒に情報が届くようシステム化を検討したい。また、教員向けの社会科部会や、初任者研修・管理職研修の場として歴史資料館を活用することも有効である。

委員：市内において歴史・文化財に関するボランティア団体の活動をしており、イベント時に参加者に周知したり、地域の子供会などに周知したりする方法もある。協力できることがあるので、必要があれば声を掛けてほしい。

事務局：今後、委員にご協力をお願いする場合もある。また、校園長会との連携を深め、学校行事との調整を図りながら、保護者も含めた周知の工夫に努める。

③令和 8 年度事業計画

- (1) 歴史資料館関係 山根報告
- (2) 横穴管理運営関係 山根報告

〔資料参照〕

【質疑】

○リアルタイム動画配信「ビジュアルストーリーガイド」について

委員：良い取り組みだと思うが、配信後、アーカイブは残っているのか。1～2分程度の短い動画があれば、スマホ世代にも届きやすい。

事務局：配信の様子を録画しており、YouTube の柏原市立歴史資料館公式チャンネルにて2022年に配信した内容を11本ほど公開している。ただそれ以降は、動画編集ができる職員が不在となっている影響もあり、YouTube へのアップロードが滞っている。後から観たいという声もあるので、視聴できるよう改善を進めたい。

委員：歴史資料館の公式ホームページ内におけるコンテンツは非常に充実している。市民レベルの視点でわかりやすい文章を交えつつ、ホームページから動画等へのアクセス導線（リンク等）を工夫することで、さらなるPRに繋げてほしい。

○開催中の企画展「日本近代の児童福祉と柏原」の経緯について

委員：地域に密着した非常に見応えのある展示だが、どのような経緯で企画されたのか。

事務局：市内にある社会福祉施設「武田塾」の100周年を機に、タイアップの持ち込みがあったことが契機である。調査を進める中で、人口6万人規模の柏原市にこれほど児童福祉施設が集積している歴史的背景（大久保知事や武田慎治郎氏の尽力、地元の経済力や受け入れ体制）が明らかになった。さらに、昭和8年の少年教護法成立において、武田慎治郎が帝国議会に詰めて法案成立の立役者となるなど、日本の児童福祉の基本が柏原から始まったという歴史的意義がある。

委員：非常に意義深い展示である。集客は難しいかもしれないが、歴史関係の層だけでなく、全国の福祉関係者や教育関係者へターゲットを広げてアプローチすれば、集客が見込めた可能性がある。

委員：今後は展示前の記者クラブへの投げ込みやレセプションでのプレゼンなど、攻めの広報を意識してほしい。

委員：こういった運営委員会にいくつか関わっているが、少ない人数で年間にこれだけの業務に取り組んでいる博物館や資料館はない。個人の業務量が過多にならないよう頑張ってもらいたい。

④その他

委員：50数年前の高井田横穴の調査・保存問題（1973～1980年代前半）の際、プロ写真家の井上博道氏が撮影した貴重な大判カラー写真（未公開）について、井上博道記念館（奈良市登美ヶ丘）を山根館長と共に訪問し、現物を確認した。提案となるが、写真を資料館で借り受け、今後3～4年のスパンの中で「高井田横穴 未公開写真展」として企画・開催してはどうか。

事務局：プロの撮影した線刻壁画写真は非常に貴重であり、記録としての重要性も高い。
展示の内容や開催時期は要調整だが、前向きに検討を進めたい。

7. 閉会

石原次長兼課長よりあいさつ

(終了 12 時 10 分)